

<2011年度 平和活動担当者連絡会研修見学会報告>

開催日時 11月25日(金) 10:00~14:40

見学先 丸木美術館、埼玉県平和資料館

参加者 東都生協(大出友記子、長尾陵) パルシステム(小山志保子、松本みなみ) 東京南部生協(青木良二) 全労済東京都本部(中野) 日本生協連(仲手川豊) 東京都生協連(竹内、木村、川延)

東京近郊の戦跡や平和資料館を尋ねて学習し、自らの学びを深め、各生協の今後活動に活かすという目的での平和活動担当者の研修として、今年度は丸木美術館と埼玉県平和資料館へ見学に行きました。晩秋のよく晴れた一日、二つの施設からの重く貴重なメッセージをしっかりと胸に刻む見学ができました。



スケジュール

- 10:00 森林公園駅集合(タクシー)
- 10:15 丸木美術館見学(昼食含)
- 12:00 埼玉県平和資料館へ移動
- 12:30 埼玉県平和資料館見学
- 14:00 見学終了、バスで高坂駅へ
- 14:40 高坂駅で解散



丸木美術館

広島出身の丸木位里と妻の俊が、原爆投下後駆けつけた現地で目の当たりにした惨状の記憶と被爆体験者の証言をもとに共同制作で描いた「原爆の図」。それまで巡回公開していたその連作をそこに行けばいつでも見られるようにと建てられた美術館です。原爆や戦争だけでなく、公害など人間を苦しめるすべてのものに対する怒りと悲しみが展示された作品から迫ってきます。

ここには、晩年に作画を始めた位里の母スマの作品も展示されています。まったく違う画風ながら自然や生き物への慈しみ溢れた作品からは「原爆の図」に通じる「生命」への思いが伝わってきて両方の作品を見る意味を感じることができました。

美術館の建つ埼玉の都幾川を見下ろす岸边は、位里の故郷広島の大田川の風景を思わせるそうです。

埼玉県平和資料館

タイムトンネルをくぐり、戦前のくらしから、戦争の時代へと進む過程を当時の生活用品や戦争に関する資料などの展示品と丁寧な説明でたどれます。戦時中のある1日の疑似体験コーナーでは、空襲警報や防空壕内で光と振動による空襲も疑似体験できます。アニメの上映や戦争体験者の証言が聞けるコーナー、風船爆弾の模型や当時の世界情勢のパネルなど子どもたちにもわかりやすい資料館です。



参加者の感想より

丸木美術館

◎原爆の恐ろしさが伝わってきました。そしてさらに「あれは芸術作品ですから」とヒロシマ行動の事前学習会でお話していただいた被爆者の関千枝子さんがおっしゃっていたことと聞いた話を思い出して、実際の光景、苦しみはいかほどだったのかと、考えました。

◎原爆の図や壁画は想像していたより迫力があり、丸木夫妻の絵に込めた思いが伝わり胸が詰まりました。その中の丸木スマさんの絵にほっと温かい気持ちになりました。

◎小学生が多く見学にきていたのを見て、小学生高学年位になったら見学会が必要だなという思いを強く持ちました。

◎財政難で一時存続が危ぶまれ心配したが、全国の支援者の運動が実り「原爆の図丸木美術館」の存在感は以前にもまして大きいと感じた。

◎学芸員の方の話は簡潔でしたが非常に有意義で、作品が1950年代には世界を巡っていたということや、占領下のプレスコードが芸術表現までは規制できなかったことなど、まさに勉強になりました。

埼玉県平和資料館

◎常設展示室や疑似体験コーナーを見学し、日本近現代史を学び知り継承していくことが大切であると改めて思いました。東京都にも公共の平和祈念館があると良いと切に思います。

◎千人針や軍服に実際に触れるコーナーがあり、貴重でした。